



特 別
76
9304
A 12



一 段 七 行 組

○ 香
○ 香
○ 香

五 行
五 行

三 行

藝術の價值

第一 藝術的的人生觀

金子筑水



六 行

傳来の道徳宗教の力地を墮して、新ち、時やと統率するも新ち、道徳宗教未
 だ世に現れず、人生の軍を免何等の意義を感せずとも、人生の宿願の意義、人生
 の歸趨の果をなす等の道に存せり、をしく我々果して何のほの現世を生れ出で
 たり者ちの此等の疑念をなして、精神を養育し、養育し、養育し、所謂遠征時代とい
 はるべし、此の時代は、藝術の一種不可解の魔力を備へて、世人を迷へしめたるもの無可
 多し、藝術が由來、不可解の魔力を備へて、世人を迷へしめたるもの無可
 も、代を統率するも、新人生が未だ現れず、時を統率し、藝術の特殊な一種不可解とし
 て、故に抵抗するも、清き力と備へて、世人を迷へしめたるもの無可
 志願を、魔力を備へて、此の境を極まり、妙極まり、一種神秘を、世界、現世に

たゞふんのもたぎる不可思議の無因の存在の、了らぬ絶対といひ、人生の趣致
 は二つあり、人生の極までこゝろにこころあり、人生の極の目的にこころあり、兩人生の歸趨
 不同なる者あり、兩現象あり、世を誤見せざる者あり、果つて此のたより無因の存在の極
 にも、平和の光を輝き、二つの世界の光の、こころあり、兩為我の妄執を去る者あり、
 両世の無情の極め、前者あり、果つて此の云ゆ、無因の存在、兩可妄執を去る者あり、
 二つともこころを合ふ、現象生起のたまご、世の生と委ぬ、人の心、目的の極までこゝろ
 一切の妄念を拂拭し、一切の邪欲を杜絶して、清淨の極まで、無因の存在の極までこゝろ
 真の真相の極までこゝろ、これ人生の極の境也、人生の極の到達地といふも、あや
 と。
 二、現在の實際生活と嘆へる者の言葉あり、現在の實際生活の、無意義と観る者の
 言葉あり、現在の實際生活の、嘆へる者の言葉あり、人生の極までこゝろ、観る者の言葉あり、
 現象の極までこゝろ、無因の存在の到達地といふも、方便の極と観る者の言葉あり、
 十二大の

事開カ

二つあり

哲學の無執平等の、無因の存在の、了らぬ絶対といひ、人生の趣致
 異なる者あり、兩現象あり、世を誤見せざる者あり、果つて此のたより無因の存在の極
 にも、平和の光を輝き、二つの世界の光の、こころあり、兩為我の妄執を去る者あり、
 両世の無情の極め、前者あり、果つて此の云ゆ、無因の存在、兩可妄執を去る者あり、
 二つともこころを合ふ、現象生起のたまご、世の生と委ぬ、人の心、目的の極までこゝろ
 一切の妄念を拂拭し、一切の邪欲を杜絶して、清淨の極まで、無因の存在の極までこゝろ
 真の真相の極までこゝろ、これ人生の極の境也、人生の極の到達地といふも、あや
 と。
 二、現在の實際生活と嘆へる者の言葉あり、現在の實際生活の、無意義と観る者の
 言葉あり、現在の實際生活の、嘆へる者の言葉あり、人生の極までこゝろ、観る者の言葉あり、
 現象の極までこゝろ、無因の存在の到達地といふも、方便の極と観る者の言葉あり、
 十二大の

7
観念、永くフラストの燃やぶつとき精神を支配し、行なり、やわや。 夢中に美
ハキ空想も七五字を弄り、幻のこきへし十可美々も強ハ、世の馬の子
オノオリオこの出奔と馬の跡を失せ、再び其の跡を現すこと無かりしと云ふ
や、境地とも夢中の樂園を感ぜしむる、嶮難を改築し無限の
と目録めぬ。 夢中を以て改築人々を極の境にあり、たゞ美々も嶮難の夢中
幻なり人々を極の境にあり、改築を以て其の境にあり、美々も嶮難の夢中
と改築せよと云ひ、改築なりし志も夢中をうつつの地を以てし、美々も、
千人七の故夢の境に、二人を極の境にあり、美々も、
と云ふも、新く、遠く、精神を以て、改築せよと云ひ、
の境を以てし、改築の生を、美々も、
初め、候てし、何れ、美々も、
十二大の

大ス本

と知らざりし也。

第三 現象生活の意義

フラストの生ハ人々を極の境にあり、何れ、美々も、
と云ふも、
の境を以てし、改築の生を、美々も、
初め、候てし、何れ、美々も、

これに、現象生活の意義を、無きと云ひ、
到底、現象の樂園を、
此の境を以てし、改築の生を、
初め、候てし、何れ、美々も、

家なり。又現業を奮勵努力する、九二十現業生活の意味を存せざるや、九二十何物あり
後へのたまふも趣味に存せざるや、九二十人我を生むを懐かす。現業趣味の存せざるや。
此の趣味や、世の世を趣味する、夢ののちのちのち、また何ぞ亦天行くはせざる
味にせざる、現業を我れが現業を、世を盡と、現業趣味存たる、根せざる、弊たる
現業を趣味する、成なる程に後味を、趣味と云ふ、其のたきき、味にせ
改味して、~~現業を~~趣味する。人我に此の現業を、趣味を味はるかたはるかた、若
るなりや、~~現業を~~趣味と云ふ、其のたきき、現業趣味を味はるかたはるかた、此
の現業趣味と権とせんかたはるかた、若るなりや、此のたきき、現業趣味が一人人生
より、~~現業を~~趣味する、人たのむ、其のたきき、現業趣味を、其のたきき、行かんじ。
現業生活と無意味と云ふ、其のたきき、現業生活と云ふ、其のたきき、現業生活と云ふ、其のたきき、
味にせざる、友人なり、現業を奮勵努力する、我れは九二二一、親の趣味を味はるかたはるかた、
どの父のたきき、~~現業を~~趣味する、其のたきき、現業努力する、其のたきき、現業趣味

10

十二大の

いざな

るまは若く、現業世界に欲願の趣あり、不完全なる世なり、我れは九二二現業を奮勵努力
力するなり、我れは九二二現業を奮勵努力する、我れは九二二現業を奮勵努力する、
事と事と趣味して、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
何なるも、斯う、不完全なる、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
たきき、斯う、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
り、之れは斯うと云はれり。現業生活を無意味も不完全なる、其のたきき、
現業生活を山嶽を山なり、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
終るなり。之れが現業生活を無意味も不完全なる、其のたきき、其のたきき、
之れを完全なる、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
志す、現業努力の生ず、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
あり。無意味も不完全なる、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、
其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、其のたきき、

11

の欲論ヲ想入至りて、ちつらにその初めに入つて其の意義を考へ来り、是れ其の初め
 と現案を以て直に與へたる。意義を撰へたるも、其の撰入せしむるも、一と此
 の撰入の故よりその現案を考へて、先きに無意義と見え、一と現案に於て
 元深甚なり、意義を撰へたるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 中ち、初め、其の意義を撰へたるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 偉大なり、信教上の信念ヲ撰へたる。斯くの如き信念ヲ撰へて、他も亦
 理想實現の爲め、分岐材料を以て、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 の趣向を以て、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、

第四 現実境と藝術境

現実生活の無意義を考へ入つて、至極の境へ入つて、此の現実生活の視子のけり、
 一と此の撰入せしむるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 此れ、其の撰入せしむるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 此れ、其の撰入せしむるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、
 此れ、其の撰入せしむるも、其の撰入せしむるも、一と現案に於て、

十二大の...

と見出たさへきと唱らうなり。さうするに、この藝術の故にあらざる者いふ、其の曲
 解して公く、古来へ生いたる大藝術なり、「人々の愛する大藝術をけきする」といふ
 動詞へまぎる人生観をまぎるなり、就中、ゲーテやこれには、密に斯くのいふべき（七）視
 と思へば、まぎるなり、これに、吾人々の至極の故に、大藝術の無（中）をまぎるといふ
 ちのよきなり。世に、斯くのいふべき者なり、唯、字に何の、曲解なり。ゲー
 テはこれには、待たず、斯術の方なり、現実に此の事と観せ、まぎるなり、
 ちのよきなりと曲解して、此等大待人も、吾人々の現世と、吾人の夢に、此等歸一なり
 と吾人せん、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり。

我の、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 不可思議と、神秘と、活の、此の、斯術の、大靈魂と、観たり。故に、此の、神靈の、人
 ち、人々の、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、個性と、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、

十二大の序

アキ

なり。吾人精神の、方なり、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 為きの、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 自然と、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 之、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 一、此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、

此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、
 此の、斯術も、人々の現世と、吾人の夢に、まぎるなり、

徳の理想境に應用せんとすといふことを得てし。曰く、理の境中と情の
 不和、情と理との隔を調和せしむるは、道徳の現象也。情を理の余と受け
 て動く、故に動くを、勉め、動くを、いまだ自然の事ならず、理の命と受けず、
 勉めず、強ひられざる、情が情あつたらば、理の寂し、所を行はざる、これ、眞の自由
 ありて、道徳の理想境中の事なり。此の意味を於て、これ、理は、現象は、情が
 情的とあり、及び、勉め、人への理想境を成せしむると見たり。これ、藝術の意義
 と通じて、これと現象は、應用せざるは、何を人への至極の藝術の境
 中、情と理との善なり也。

第五 宗教と藝術

藝術は、現象と理想と、いふ今其の間に幾多の差あり、其の本領は、
 理想にあり、人生至極の境に、いふ現象は、理の境にあり、これを、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、



たつた、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、
 のたつた、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、
 藝術は、人への至極の境に、いふ現象は、理の境にあり、これを、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、

宗教と藝術の間に、性のある、これを、これを、これを、これを、これを、これを、
 の、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、これを、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、
 此、これを、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、

不折の努力す。若く人生をたゆむと断つことと峻極を、理想はほりておの
人の進歩より人生其の人の実相を執行すを待し。おし人生の幸ひと悲し
く峻極をものをもちて、危き峰を越へ行く中途に、秋とやまのて西國を眺
め、後を眺へ行くことを率す。進みゆるとして、亦我が眼より遠くを率す
進むを待つ、我れいつこの麓より率するゆりし、いつの峰よりいつ遠大無
事大天地の命儀、来るべき時、この道を率す旅路の途に免れざる。
理想世界は、我れ眼を望むれば、我れ理想世界も亦、我れ我れ西國の
実相と天地とちるとして、いつの大地に踏踏して、峻極を現実に歩む。実
へとも、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
降の態度に、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
率する峻極より、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
と執覚す。峻極よりいつの。一息を進むか、我れいつこの麓より遠大無事と人

十二大の

十一大の

不折の努力す、若く人生をたゆむと断つことと峻極を、理想はほりておの
人の進歩より人生其の人の実相を執行すを待し。おし人生の幸ひと悲し
く峻極をものをもちて、危き峰を越へ行く中途に、秋とやまのて西國を眺
め、後を眺へ行くことを率す。進みゆるとして、亦我が眼より遠くを率す
進むを待つ、我れいつこの麓より率するゆりし、いつの峰よりいつ遠大無
事大天地の命儀、来るべき時、この道を率す旅路の途に免れざる。
理想世界は、我れ眼を望むれば、我れ理想世界も亦、我れ我れ西國の
実相と天地とちるとして、いつの大地に踏踏して、峻極を現実に歩む。実
へとも、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
降の態度に、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
率する峻極より、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
と執覚す。峻極よりいつの。一息を進むか、我れいつこの麓より遠大無事と人
生をたゆむと断つことと峻極を、理想はほりておの人の進歩より人生其の
人の実相を執行すを待し。おし人生の幸ひと悲しく峻極をものをもちて、
危き峰を越へ行く中途に、秋とやまのて西國を眺め、後を眺へ行くこと
を率す。進みゆるとして、亦我が眼より遠くを率す。進むを待つ、我れ
いつこの麓より率するゆりし、いつの峰よりいつ遠大無事大天地の命
儀、来るべき時、この道を率す旅路の途に免れざる。理想世界は、我れ
眼を望むれば、我れ理想世界も亦、我れ我れ西國の実相と天地とちると
して、いつの大地に踏踏して、峻極を現実に歩む。実に歩む。実に歩む。
峻極より、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
降の態度に、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
率する峻極より、我れいつこの麓より遠大無事と人生の道を執覚し、進めば、美
と執覚す。峻極よりいつの。一息を進むか、我れいつこの麓より遠大無事と人

相と能く能いざし。わんし、夢的のし、現象的のし、藝術が、わんし、現象
 生活に深大なる、関係を有するものと、古く知れし、藝術に夢的のし、
 夢的の、わんし、現象的のし、何もの因縁なきものとして、
 更らば、藝術の夢的のし、所謂無意識の、夢的のし、
 精神活動の、現象的のし、現象的のし、現象的のし、
 夢的の、現象的のし、現象的のし、現象的のし、
 我執と執也、公平無私のし、余欲、素直、全馬肉を、
 子儀、降世の、し、人生の、
 新ら、
 生活の、
 活動は空志、

十二大の事

トラス

次より、優なる、現象的の、光明の、
 行く、
 あり、
 れい其の、
 彼は、
 精神活動と、
 と、
 現象的の、
 といふ、
 芸術家、
 されど、
 とし、

信仰の対象は、~~神~~ 其の霊話と救済の霊話である。
 其の霊話と救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。
 其の救済の霊話とは、~~救済の霊話~~ 救済の霊話である。

(完)

